



Press Release

公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団
〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目4-24
TEL 06-6375-3202 FAX 06-6375-3229

公募助成の 助成先が決定！

JR西日本あんしん社会財団

2020年度公募助成（活動及び研究） 助成先（活動団体・研究者）が決定しました ～身近な「いのち」を支える取り組みを応援します～

○応募及び選考結果

JR西日本あんしん社会財団では、「安全で安心できる社会」の実現に向け、2020年度助成においても、心身のケア、防災、救急救命、事故防止など身近な「いのち」を支える活動及び研究を広く募集しました。甚大な被災となった平成30年7月豪雨（西日本豪雨）に対する被災地・被災者支援活動についても前年度に引き続き、特別枠として募集しました。その結果、岡山県、広島県に活動拠点を置く団体を含め、活動助成59件、活動助成（特別枠）38件、研究助成53件の計150件のご応募をいただきました。

ご応募いただいた全ての案件について、当財団の事業審査評価委員会において厳正な審査を実施し、全件で68件、5,089万円の助成を行うことを決定しました。

	応募件数	助成決定		
		件数	金額	採択率
活動助成	59件	34件	2,104万円	58%
活動助成（特別枠） ^注	38件	26件	1,615万円	68%
研究助成	53件	8件	1,370万円	15%
合計	150件	68件	5,089万円	45%

注「活動助成（特別枠）」とは、東日本大震災、平成26年広島市土砂災害及び平成30年7月豪雨（西日本豪雨）の被災地・被災者支援に関する活動に対する助成を指します。

※助成期間は、2020年4月1日から2021年3月31日までの1年間です。

※各助成先の助成対象テーマは、資料1をご参照ください。

※事業審査評価委員会における審査状況の詳細及び審査総評は、資料2をご参照ください。

○贈呈式について

3月下旬に助成先の皆様にお集まりいただき贈呈書をお渡しする「公募助成贈呈式」を計画しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点より、中止とさせていただきます。



公益財団法人

JR-West Relief Foundation

JR西日本あんしん社会財団

「2020年度公募助成(活動及び研究)」助成先一覧

【資料1】

【活動助成】

(団体名50音順)

団体名	活動名称	主な活動内容
生きる力を育む研究会	『要支援者理解を促すチャート図』と『障害者の避難物資リスト作りWS』等の普及活動	災害時に障がい者や高齢者をはじめ社会的弱者を守るため、地域住民に向け障がい者等を適切に避難誘導するために開発したチャート図によるワークショップを実施し、災害対応力を高める。
いじめから子どもを守るネットワーク和歌山	「いじめから子どもを守る読み語り」授業	いじめに直面する小・中・高校生及びその父母に対し、いじめから子どもを守る読み語り、いじめ防止の授業、フォーラムを開催し、問題解決と教育環境の整備を行う。
伊都・橋本地球温暖化対策協議会	地球温暖化と防災対策	地域の防災リーダーの防災技術の向上、住民の防災意識の高揚を目的に、防災対策等の地域防災リーダー研修会、親子防災キャンプを開催し、災害に備えた防災技術や非常時の対応力の向上を図る。
特定非営利活動法人 いのちのケアネットワーク	グリーンケア・スピリチュアルケア提供者を対象としたセルフケア講座	ケア提供者が行うセルフケアの普及とそのサポート体制作りを行うため、ケア提供者に対するセルフケア講座を開催し、スピリチュアリティの涵養を図る。
宇治市平尾台二丁目自治会・平尾台自主防災組織会	大災害に対する地域防災・要援護者支援ネットワークの構築	防災倉庫に発電機や防災備蓄品を配置するとともに、防災訓練、防災出前講座等による地域住民の防災意識向上を図る。避難生活の質を高められるよう、避難者支援ネットワーク構築を図る。
特定非営利活動法人HCCグループ	防災フォーラム inおおつ 2020「活断層地震 ラジオはあなたの命を守る」	地域コミュニティ放送の従事者及び住民の防災意識の向上を図るとともに、災害時のラジオ局の有効性を広め、地域の防災力を高めるための防災フォーラムを開催する。
LFA食物アレルギーと共に生きる会	関西アレルギー災害ネットワーク会議	食物アレルギーがある人の災害対策と災害支援団体等とのネットワーク作りのため、アレルギー災害ネットワーク会議を開催し、被災時対策の情報共有や新たな提案を行う。
大阪J いのちの授業	教職員や地域住民の救急医療・防災力向上を目的とするいのちのラーニングと学びブース	教職員の救急・災害訓練の必要性を広め、地域のPTA・地域住民を対象とした講義や実地訓練等を行い、またチームで参加する救急・災害のシナリオによるラーニングを実施する。
大阪府大規模災害リハビリテーション支援研究会	リハビリテーション専門職を目指す学生への防災・災害医療の教育	震災関連死や生活不活発病を予防することを目的に、リハビリテーション専門職を目指す学生への防災・災害医療教育、実習形式で学ぶセミナーやシンポジウムを行う。
特定非営利活動法人 大阪ライフサポート協会	障がい者が行う心肺蘇生と応急手当の普及	障がいを持つ方がその障がいの種類や程度に応じて行える「心肺蘇生と応急手当」を確立し、指導法や教材を広く社会に提供するとともに講習会を通じ普及に努める。
公益財団法人 大阪YMCA	大阪YMCAウォーターセーフティキャンペーン	小学校を対象とした着衣泳講習会、各家庭へのウォーターセーフティハンドブック配布等による啓発活動や川遊び、海辺での水難事故防止プログラムを実施し、水難事故の防止を図る。
特定非営利活動法人オーシャンゲート ジャパン	水際レスキュー安全プロジェクト”命を守る行動”	障がい児や高齢者を含めた多くの人々に対し、災害、不測の事故時の行動と連携をロールプレイングしながら水面安全救助、応急手当、安全移送等の水際レスキュー安全プログラムを実施する。
かなしみぼすと	グリーンケア	グリーンケアやスピリチュアルケア提供者の共感疲労を予防し、その重要性の社会的認知度を高めることを目的に、マインドフルネスとセルフケアのワークショップ・公開講座を開催する。
かんまき子どもサバイバルキャンプ実行委員会	かんまきサバイバルラボ(子どもたちへの防災教育訓練を通じて、地域の自主防災力向上に取り組む)	子どもたちによる避難所運営訓練、宿泊訓練を通じ、災害時の自主避難行動等の意識付けを図るとともに、子どもたちの保護者や町役場を巻き込んだ自主防災訓練を実施する。
特定非営利活動法人暮らしづくりネットワーク北芝	社会的孤立から考える地域防災力向上イベントと公助との連携強化訓練事業	住民同士の共助の醸成や地縁団体による防災ネットワークの強化により災害時の社会的孤立を防ぐため、公営団地集会所を活用した防災イベント、地区防災委員会との避難訓練を実施する。
特定非営利活動法人検定協議会	キッズ防災検定	阪神淡路大震災の風化防止を図るとともに、防災意識や知識を高め、災害時に自助、共助、公助の連携によって被害を軽減するため、小学生を対象に防災に関する検定を行う。
公益財団法人 公害地域再生センター	水害多発地域における子育て層による自発的な防災活動	子育て層を主な対象とした自発的な防災活動の実施をテーマに、防災ネットワークづくりや防災イベント、勉強会を実施するほか、SNSを活用した防災情報の発信を行う。
NPO法人 次世代エネルギー研究所	ドローンを用いた地域防災訓練の検証	地域の防災能力を高めるため、自治体等と連携し、広く地域住民を対象にドローンを使った効果的な避難訓練や緊急物資搬送の防災訓練を行う。
特定非営利活動法人鍼灸地域支援ネット	災害時における鍼灸・マッサージ活動のための支援情報共有ツールの作製	鍼灸・マッサージチームが避難所等で行う支援活動の情報等を関係者に迅速で正確に提供するため、ITによる連携システムと情報ツールの改善等を行う。
NPO法人日本教育再興連盟	未来に繋がる防災教育実践コミュニティづくり	将来も機能し続ける持続可能な防災コミュニティを目指し、防災教育実践体験会、防災授業研究会、防災研修等を実施する。
特定非営利活動法人ノート	たかつき川キッズ調査隊シーズン2 ～川遊び安全マップを作ろう！～	安全な川遊びや救助方法を体験する防災安全プログラムや子どもたちが市民等へ啓発する川キッズ安全教育、川遊び安全マップ作りを実施し、水難防止予防と防災意識の向上を図る。
はすの会 東大阪・神戸	はすの会 東大阪・神戸	大切な人を亡くした方対象の茶話会や日帰りバスツアー、グリーンケアを提供する医療職や看護学生の研修会を実施し、遺族の多様なニーズに応えるグリーンケア活動、ファンリテーター養成を行う。
特定非営利活動法人働く者のメンタルヘルス相談室	家具固定と震災後のトイレ問題を重点にした防災普及と、防災を支える新たなコミュニティの形成	防災対策で重要な家具固定とトイレ対策をテーマとした防災パネル展を開催するとともに、地域コミュニティ形成による防災推進を図る観点から1日子ども食堂を実施する。
B-NET@SAIDAIJI	一次救命処置たし算プロジェクト	心停止した傷病者を救命率高位で救急隊へつなぐため、講習会等を通じ、訓練器の活用による胸骨圧迫のスキルや一次救命処置の方法を多くの人に周知し、救命率の向上を図る。
特定非営利活動法人人・モノ・支援センター	障害理解促進事業「盲導犬を通して学ぶ・ふれあう」	視覚障がいをもつ人が安心、安全に歩行することができる地域づくりや子供たちへの啓発活動を目的に、視覚障害、盲導犬に関する体験実習を含めた小学校等での出前授業を行う。
ピリブメントケアチーム「ピリブ」	ピリブメントケアチーム「ピリブ」	子どもを亡くした家族、特にケアが必要な急性期の遺族に対し、訪問活動やカフェ形式のわかちあいの場の開催により、心の支えとなる支援を行う。
一般社団法人フリンジシアターアソシエーション	防災力向上！地域防災演劇ワークショップ事業	子どもの防災に対する自助・共助の知識習得や行動力の向上、安全で安心な地域を形成することを目的に、防災演劇ワークショップや防災演劇体験会、発表会を開催する。
フレンズかわにし実行委員会	JR福知山線列車事故 被災者支援募金イベント フレンズかわにし 2020	事故の風化を防ぎ、安全を訴え続けるために、講演や音楽演奏を中心としたイベントや救急手当講習会などを行うとともに、事故被害者支援のための募金を呼びかける。
ポコズママの会 関西	流産・死産経験者で作るポコズママの会	流産・死産を経験されたご家族のサポートや流産・死産についての正しい知識を啓蒙するため、悲嘆の様子に応じたお話しや講師を招いたセミナーを開催する。

まちキャラパーク実行委員会	阪神淡路大震災1.17は忘れない～防災減災まちキャラパーク2020	震災から25年目を迎え、災害から自らの身を守る自助と助け合う共助について家族で考えて貰える場を提供することを目的に、防災・減災イベントや救急救命ショーを開催する。
特定非営利活動法人ママふぁん関西	性・生教育プロジェクト	「命」を守る親子を増やすことを目的に、生命の誕生や性教育ついて親子で学べる性・生教育講座開催や自治体や学校現場でも活用できる冊子制作・配布を行う。
特定非営利活動法人雷嵐対策推進機構	私立高等学校向け防災計画策定及び見直し支援講習会の実施	災害発生が予測される場合の生徒及び教職員の安全確保のための防災計画策定及び見直しを促すとともに、災害や気象、異常気象に実施すべきことなどの講演会を開催する。
和歌山県情報化推進協議会	臨時災害放送局開設訓練を通じた災害時の地域情報共有基盤の形成	災害発生時に地域内の災害情報共有基盤を作ることを目的に、臨時放送局の開設訓練と、それを通じた地域からの情報を収集・整理し伝達するための仕組み構築や人材育成を行う。
和歌山動物愛護推進実行委員会	災害時におけるペットの同行避難「ペットと一緒に避難したいんですが？」	災害時の人とペットとの関係や行動を検証し、その防災意識を向上させるため、発表会やパネルディスカッション、飼い主とペットとの避難同行訓練を実施する。
活動助成小計 34件		

「2020年度公募助成(活動及び研究)」助成先一覧

【活動助成(特別枠)】

(団体名50音順)

団体名	活動名称	主な活動内容
アジア子ども基金	輝くイベントで、子どもの聞き取り調査と、こころケア	東日本大震災から10年を迎える節目に被災地でのイベントを通じ、子どもたち、地域の方から話を聞きながらの傾聴ケアを行い、その内容をまとめ、被災地内外へ発信する。
あらいぐま大阪	西日本豪雨災害で被災した写真をお預かりし泥などを洗浄・除菌しお返しする活動	災害で被災された方々の人生の記録である写真を預かり、思い出を救い、前を向いていただく力となることを目的に、写真を洗浄・除菌しお返しする。
特定非営利活動法人 育々会※	被災者に寄り添う「いろどりアートサロン」	西日本豪雨の被災地の方々へ絵画・塗り絵の展示や絵の描き方の解説、ワンポイント講座を含めたアートサロンを開催し、色彩を用いた心の支援を行う。
笑顔つながるささやまステイ実行委員会	笑顔つながるささやまステイ	福島県の被災地の子どもたちと保護者を篠山に招き4泊5日のステイを実施し、終了後に報告会や福島の現状を学ぶ勉強会を開催し、被災者との交流と地域防災力の向上を図る。
岡田地区まちづくり推進協議会※	真備町岡田地区の復興・防災まちづくり事業	被災した地区で以前から実施していた夏祭り、防災研修会等の各種イベントを復活させ、この地区から離れている住民の元気を取り戻し、この地区に戻るきっかけや原動力となる活動を行う。
被災支援ボランティア団体「おたがいさまプロジェクト」	倉敷市真備町の緊急救援活動及び、避難所・仮設への慰問ボランティアツアー その2	被災した地域支援のほか、ボランティア活動の意義や、被災地の現状等を広く知ってもらうことも目的に、同地域の仮設住宅、児童館等での慰問ボランティア活動やそれらの情報発信を行う。
特定非営利活動法人オリーブの家※	心の二次災害予防対策	西日本豪雨の被災者等を対象に、自分を守るネットワークづくりや自分や他者にも寄り添える人材育成を目的とした、ネットワーク作りのワークショップや心理学のセミナーを開催する。
NPO法人語り部おもちゃ箱音楽隊	西日本豪雨被災地及び東北被災地ふれあい語り部コンサート	東日本と阪神・淡路、二つの大震災を経験した団体代表らによる語り部コンサートを東北や岡山などで開催し、双方の被災地の状況を伝えるほか、身近な防災知識の紹介なども行う。
ガリレオクラブインターナショナル	震災から10年、節目の東北作業所応援市2021	被災地における障がいを持つ人やその周りの人達への防災知識向上と心のケアを目的に、現地での聞き取り調査やリフレット制作、東北応援市を開催し、東北と関西とを繋ぐ活動を行う。
川辺地区まちづくり推進協議会※	真備町川辺地区復旧・復興に向けたまちづくり事業	被災した地区で以前から実施していた三世代交流会等の各種イベントを復活させ、この地区から離れている住民の元気を取り戻し、この地区に戻るきっかけや原動力となる活動を行う。
がんばろう！つばさネットワーク	東日本大震災と大阪北部地震の被災地から元気を発信！親善野球	東北被災地での現地ボランティアや被災地の高校生を招いた野球の親善試合、ホームステイを通じた交流により、被災地に元気を与え、ともに、防災に繋がる地域内の連携を構築する。
呉妹地区まちづくり推進協議会※	真備町呉妹地区復興に向けた住民きずな事業	被災した地区で以前から実施していた吉備真備弾琴祭等の各種イベントを復活させ、この地区から離れている住民の元気を取り戻し、この地区に戻るきっかけや原動力となる活動を行う。
一般社団法人 こどもスマイルミーティング※	一般社団法人 こどもスマイルミーティング	西日本豪雨の被災地の親子に楽しい時間を提供するとともに保育士ボランティアの養成を目的に、親子コンサートの開催や保育園、幼稚園等で保育士研修を実施する。
ゴントーズ高原スポーツ少年団	『双葉町応援隊 絆』復興に向けて	京都府京丹波町の子どもたちが福島県双葉町を訪れ、夏祭りに参加するなど交流活動を実施し、行政や地域住民とも関わりながら被災地の復興と双方のコミュニティー構築を図る。
災害で生活が変わった子供を支援する会※	子どもたち生まれ！豪雨に負けない心を育てる！	西日本豪雨の被災地の子供の心を支援し、イベントを通じ住民の結束力を高め、町を作る心を育てることを目的に、サバイバルキャンプや読み聞かせ等を取り入れたイベントを開催する。
菌地区まちづくり推進協議会※	真備町菌地区復興のための住民交流事業	被災した地区で以前から実施していた夏祭等の各種イベントを復活させ、この地区から離れている住民の元気を取り戻し、この地区に戻るきっかけや原動力となる活動を行う。
一般社団法人データクレイドル※	平成30年7月豪雨倉敷真備地区の被災経験を生かした女性視点の災害セルフケアマニュアルづくり	被災地の生活復興の過程を収めた写真や情報の収集・蓄積を行い、今後の災害セルフケアに活用できるようにデジタル化・整理を行い、記録作りワークショップの開催や冊子の制作等を行う。
NARA Will 奈良県立医科大学 学生災害ボランティアグループ	医療系学生による福島県内での学生災害ボランティア復興支援活動	被災地の医療現場を中心とした現状を認識し、今後の被災地の支援活動に繋げることを目的に、学生による復興支援活動を行うとともに、終了後に追悼講演会を開催し情報共有を図る。
二万地区まちづくり推進協議会※	真備町二万地区における被災者との住民交流・防災まちづくり事業	被災した地区で以前から実施していた環境美化活動等の各種イベントを復活させ、この地区から離れている住民の元気を取り戻し、この地区に戻るきっかけや原動力となる活動を行う。
服部地区まちづくり推進協議会※	真備町服部地区復興のための住民交流・防災まちづくり事業	被災した地区で以前から実施していた夏祭り等の各種イベントを復活させ、この地区から離れている住民の元気を取り戻し、この地区に戻るきっかけや原動力となる活動を行う。
兵庫県立大学減災復興政策研究科災害支援チーム	坂町における内発的復興の取組み推進活動	西日本豪雨で被災した地域の住民主体の防災力向上とコミュニティ形成促進を目的に、災害公営住宅等を利用したサロン活動や住民同士の声かけ体制を構築する防災マップ作りを行う。
びわこ☆1・2・3キャンプ実行委員会	びわこ☆1・2・3キャンプ in 2020夏	安心して自然と触れ合うことが難しい福島県の子どもたちを対象に、滋賀県高島市で琵琶湖での遊泳をはじめとした自然体験中心の施設滞在型の長期保養キャンプを行う。
ボランティアグループ雑巾を縫う会	東日本大震災石巻、南三陸支援及び岡山倉敷真備支援	被災した家庭清掃等に必要の綿布雑巾の要望に対し、定期的にメンバーが集まり雑巾を制作し、手縫雑巾の被災地への送付や訪問持参を支援する。
三入学区自主防災会連合会※	小学生とつくる地域の防災紙芝居プロジェクト	世代間交流による地域の団結力向上を目的に、地域住民が災害の歴史や民謡を小学生に読み聞かせ、それを基に子供たちが描いた防災紙芝居作成し、地域内外で発表、啓発活動を行う。
みわのわ	みわのわ 福島県双葉郡こどもサマーキャンプ	福島県双葉郡の子どもたちを福知山市に招いてサマーキャンプを開催し、福島県の状況を学ぶ勉強会実施や子どもたちのボランティア育成など地域の防災力向上にも取り組む。
箭田地区まちづくり推進協議会※	真備町箭田地区復興のための住民ふれあい事業	被災した地区で以前から実施していた竹&ふれあいフェスタ等の各種イベントを復活させ、この地区から離れている住民の元気を取り戻し、この地区に戻るきっかけや原動力となる活動を行う。
活動助成(特別枠)小計 26件	※印は近畿2府4県以外に拠点がある団体	

「2020年度公募助成(活動及び研究)」助成先一覧

【研究助成】

(研究者名50音順)

研究者名	研究名称	主な研究内容
神戸大学 保健管理センター／医学研究科病態情報学 准教授 井口元三	深層学習(ディープラーニング)を活用したストレスチェックに基づく労働災害リスク予測モデルの開発	深層学習の技術を活用し、既存より効率的かつ正確なメンタルヘルス不調による労働災害リスク予測モデルを開発し、将来的な疾病を予防する質の高い保健サービスを創出する。
四天王寺大学看護学部 看護実践開発研究センター 教授 宇佐美しおり	被災者兼支援者のうつ/PTSD(外傷後ストレス障害)予防介入実践者育成訓練プログラムの開発	発災後の被災者や自治体事務職、消防士、警察官、医療職等の支援者の離職予防のため、うつ/PTSD予防介入実践者育成訓練プログラムを開発し、妥当性、有効性の検討を行う。
兵庫県立大学 地域ケア開発研究所 教授 梅田麻希	大都市圏における訪日外国人を対象とした災害情報発信システムの開発: SNSを活用した情報提供の倫理的・技術的課題の検討	災害時にSNSで不特定多数の訪日外国人に向けた情報発信の際の倫理的・技術的課題を明らかにし、被災した訪日外国人の不安軽減を目指した情報提供の技術、方法及び体制を検討する。
公益財団法人全国市町村研修財団全国市町村国際文化研修所 客員教授 小西敦	メディカルコントロールの現状・課題・展望	各都道府県のメディカルコントロール体制の現状と課題を実証的に分析し、傷病者の搬送及び受入れに関する基準を比較検討し、あるべき体制や実施基準の展望、改善策を提示する。
関西大学大学院 大学院生: 博士課程後期課程 静間健人	地域防災対策における人任せを誘発する要因の検討: 社会的規範に着目して	高齢者や障がい者などの要配慮者の防災関与を阻害する要因分析や災害時のニーズを明らかにし、今後の防災対策や地域防災活動において主体性を発揮できる仕組みを提案する。
公益社団法人NEXT VISION 常務理事 仲泊聡	転落事故低減を目的とした電子式歩行補助具による視覚障害者の安全な単独歩行への寄与の評価	視覚障がい者の駅ホームからの転落事故低減を目的に、ホーム上での危険状況を伝える電子式歩行補助具の改良を行い、直線歩行時の歩行軌道や心理的ストレスへの寄与を評価する。
奈良学園大学 教授 松井典夫	事件・災害の未体験教員による「語り継ぎ」のジレンマと必要性・有効性の研究	事件・災害における被害の風化防止や語り継ぎ責務を継承する教員の育成のため、語り継ぎの必要性と有効性を明らかにする。
大阪府立大学 准教授 矢澤彩香	災害時における外国人に対する食支援に関する研究	災害時、避難所等で食支援にあたる栄養士の外国人に対する対応や海外旅行者の災害に対する意識等につき現状把握、検証し、外国人への災害時の食支援のあり方について提示する。
研究助成小計 8件		
<総合計> 68件		

「2020年度公募助成（活動及び研究）」の審査結果について

公益財団法人J R西日本あんしん社会財団
事業審査評価委員会 委員長 白取 健治

「2020年度公募助成（活動及び研究）」に多数の応募をいただき、深くお礼申し上げます。

応募いただいたどの案件も、「安全で安心できる社会」に対する強い思いが伝わってくるものであり、事業審査評価委員会委員一同、一つひとつの申請書を丁寧に拝見させていただき、慎重に議論を重ねながら審査をさせていただきました。

今回、助成対象となった団体や研究者の方々だけでなく、応募いただいた皆様が真摯な取り組みを継続的に行っていくことが、「安全で安心できる社会」の実現につながる道になると、我々は信じています。

1. 応募状況

「2020年度公募助成（活動及び研究）」では、募集テーマを引き続き「事故、災害や不測の事態に対する備えやその後のケアに関する活動や研究」として募集いたしました。

「活動助成（特別枠）」においては、甚大な被害をもたらした「平成30年7月豪雨（西日本豪雨）」（以下（ ）内略）に対する被災者支援活動につき、引き続き広島県及び岡山県に活動拠点を置く団体も対象とし、特別枠として募集するとともに、東日本大震災や平成26年広島県土砂災害に対する支援活動についても同枠として募集いたしました。

募集にあたり、対象となる府県にある社会福祉協議会や市役所、ボランティア情報センター、NPO支援機関等への訪問やチラシ郵送による広報活動、駅等でのポスター掲示を行ったほか、助成に関する個別相談会を大阪、広島及び岡山地区で開催しました。特に、前回募集において、大きな被害がありながら応募のなかった岡山県の団体に、本助成の内容を少しでも知っていただけるような広報活動を展開し、同地区の複数の新聞に採り上げていただいたことや、自治体等から地域のボランティア団体等へ積極的なお声かけをいただいたことも相俟って、同地区において想定を上回る認知を得ることが出来たと感じております。

研究助成の応募は減少したものの、平成30年7月豪雨の被災者・被災地支援活動を行う岡山県の団体の多くの応募が加わった結果、前年より3件増加し合計150件の応募をいただきました（活動助成は4件増加し59件、活動助成（特別枠）は10件増加し38件、研究助成は11件減少し53件となりました）。

2. 審査プロセス

審査は、これまでと同様、理事長から諮問を受け、まず事業審査評価委員会を開催し、審査基準や具体的な審査方法等を確認したうえで進めました。

7名の委員全員が全案件の申請書をじっくりと読み込み、1次審査と2次審査において全案件について各自で評価を行いました。その後、最終審議の場としてあらためて事業審査評価委員会を開催し、各委員が2次審査の評価を持ち寄り、集中的な討議の末、採択案を決定するとともに、その結果を理事会に答申しました。

審査にあたっては、応募資格を満たしているかの確認はもちろんのこと、募集要項に記載がある当財団による本助成の趣旨に合致することを最も基本的かつ重要な判断基準とし、特定分野に偏らないよう活動や研究の分野別バランス等も十分踏まえつつ、「社会的な必要性」、「独創・先駆性」、「計画性」、「経費の合理性」、「地域における連携やつながり」の視点で厳正な審査を行い、採択案を決定しました。

なお、これまで当財団から助成を受け、今回も申請があった活動に対する継続助成の審査にあたっては、新規案件と同様の視点で審査を行うのみならず、当財団が継続して助成を行う必要性や、今後の発展性、社会に対する影響力のほか、申請時点での具体的な活動成果等を総合的に吟味したうえで、採択案を決定しました。

3. 審査結果

今回の募集でも、本助成の趣旨に合致する多数の活動及び研究の応募がありました。これは、地域の関係機関等への訪問広報活動や個別の相談会の開催など、本助成の地道な広報活動が実を結んだことに加え、既助成団体により新たな団体等への紹介いただくことによる認知の広がりもあり、本助成が地域社会に年々浸透していることを実感しています。

最終的には、当初予定していた助成総額 5,000 万円を上回る、活動助成 34 件、2,104 万円（前年 28 件、1,740 万円）、活動助成（特別枠）26 件、1,615 万円（前年 14 件、934 万円）、研究助成 8 件、1,370 万円（前年 16 件、2,487 万円）、合計 68 件、5,089 万円（前年 58 件、5,161 万円）を採択案件として理事会へ答申いたしました。採択率は、活動助成が 58%（前年 51%）、活動助成（特別枠）が 68%（前年 50%）、研究助成が 15%（前年 25%）となり、全体では 45%（前年 40%）となりました。

(1) 活動助成

度重なる自然災害の発災のほか、異常気象等による防災・減災意識の高まりから、防災・減災に関する応募が多く、次いで心のケア、救命、安全に関する取り組みの応募が続くこととなりました。採択件数においても、それらを反映した結果となりました。

(2) 活動助成（特別枠）

平成 30 年 7 月豪雨の被災者・被災地支援活動、特に岡山県倉敷市における支援活動に多くの応募がありました。東日本大震災等の被災地・被災者支援に関する活動については、発災からの時間経過もあり、前年を上回ることはありませんでした。活動内容としては、被災者の心のケア、コミュニティの復興に関する応募が多く、それらを中心に、且つ今必要な支援という観点も考慮のうえ採択いたしました。

なお、2 府 4 県以外に拠点がある団体として岡山県から 10 団体、広島県から 3 団体を採択しました。

(3) 研究助成

活動助成と同様に、防災・減災、次いで心のケアに関する応募が多数寄せられました。採択に当たっては本公募助成の趣旨及び社会的必要性等の審査基準に該当するものとし、うち「計画の遂行能力」に関しては、得られる成果の具体性が高いかどうかも含め慎重に審査を行い、分野バランス等も考慮し、防災・減災、心のケアに加え、交通、救命分野からそれぞれ採択いたしました。

4. 総評

今回も熱意あふれる多くの応募をいただき「安全で安心できる社会」の実現に向けた素晴らしい活動や研究に対して助成できることを大変光栄に思います。

昨年と比較すれば、研究助成で前年を下回ることとなりましたが、活動助成については、活動助成（特別枠）とともに前年を上回り、合計では 2 年連続前年を上回る結果となりました。これは、本公募助成の認知度が回を重ねる毎に高まっている結果だと思います。

全体を通じ、質の高い応募がある一方で、申請上の記載不備、書類不備がある等形式的要件のために、内容自体はよくても、残念ながら不採択とせざるを得ないケースも少なくありませんでした。不備事項を改善し再度の応募をしていただきやすいよう、不備に至った主な事由を特定して示せるよう不採択通知書の見直しを行いました。さらに初めての方にも多数応募いただけるよう、申請様式の簡素化等も今後検討してまいりたいと考えております。

研究助成については、採択件数は前回に比べ大幅に減少しました。最近の採択案件において、所期の研究成果に対し、十分とはいえないものも見受けられ、今回の審査では、質が高いのは勿論ですが、そのような観点も踏まえ、審査委員間で具体的な成果イメージが共有できるかどうか一つのポイントとして採択案を決定しました。採択となった研究者の方は、是非、所期の研究成果が得られるよう取り組んでいただきたいと思います。

「安全で安心できる社会」の実現は、一朝一夕で達成できるものではありません。その実現に向けて真摯で地道な取り組みをされている皆様、新たに取り組みを開始される皆様のご活躍を心よりお祈りしております。